

令和5年度第2回香美市保育園運営委員会 会議録

○日時 令和5年10月23日（月）13:25～14:55

○場所 香美市役所5階503会議室

○出席委員

宮地委員、信崎委員、竹内委員、近藤委員、公文委員、植村委員、中島委員、原委員、
笹岡委員、武内委員（代理：公文主任）、堀内委員、公文委員、黒原委員

○欠席委員

島谷委員、森田委員

○事務局

白川教育長、中山次長、一圓課長、小松班長

○傍聴者

1名

《開会》

（一圓課長）

皆様こんにちは。少し定刻より早いですが、ただ今から「第2回香美市保育園運営委員会」を開催したいと思います。

本日は、お忙しい中、お集まりいただきまして誠に有難うございます。

はじめに、会議の開催にあたりまして、白川教育長より、ご挨拶を申し上げます。

白川教育長、よろしく願いいたします。

（白川教育長）

皆様こんにちは。

晴れ渡る秋空に羊雲や縹雲がぽっかりぽっかり浮かんでおります。錦秋の秋ももうそろそろかなあと思われるとても気持ちの良い季節となりました。

お忙しいなか、「令和5年度第2回香美市保育園運営委員会」にご参集をいただき有難うございます。また、本市の教育振興にご支援を賜り、心より感謝を申し上げます。

急速な社会の変化により、子どもたちを取り巻く生活スタイルや教育環境が変化し続けていっております。そうした中、就学前教育・保育のあり方が、益々重要性を増し、そのあり方自体が問われております。香美市としましても、これまでの取り組み成果の上に立ち、課題を改善するため、子どもたちの情緒的発達や、認知能力、社会性の発達等、子ども達の心身の総合的な発達を保障すると共に、幸せな人生の作り手としての基盤を築くための保育所の機能及び質の向上に向け、ご意見を賜り、創意工夫を重ねて参りたいと考えておるところであります。本日はどうぞ、ご忌憚のない、ご意見をいただき、香美市の教育に、ご協力、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

げます。

(一圓課長)

それでは、本日の会議は、お配りしました「第2回香美市保育園運営委員会次第」に基づき進めさせていただきます。

まず、お手元の資料の確認をお願いいたします。

(小松班長)

幼保支援班長の小松です。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

本日の資料のご確認をお願いしたいと思います。

まず、次第、メモ用紙、委員名簿、就学時知能検査と令和4年度ことばの調査、保育所保育指針（一部抜粋）、なるほど保幼小接続期カリキュラム、保幼小接続期カリキュラム（他市保育所）、保幼小接続期カリキュラム（他市幼稚園）、架け橋期のカリキュラム（保育所・幼稚園・認定こども園）、架け橋期のカリキュラム（小学校）、保幼小の架け橋プログラムシンポジウム開催要項、就学時知能検査の資料の追加、以上になります。

資料に不足等ありましたら、予備がありますので事務局にお申し付けください。

なお、就学時知能検査の2つの資料は会議終了後、回収をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。（不足分補足する。）

(一圓課長)

それでは、資料がお揃いのようなので、次に会議の成立についてご報告させていただきます。本日は、全委員15名中、現在13名のご出席をいただいております。委員の過半数の出席がありますので、会議成立の定足数を満たしておりますことをご報告申し上げます。なお、本日、島谷委員様と、森田委員様はご都合により欠席となっておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、ここからは議事に入りますので委員長に進行をお願いしたいと思います。

宮地委員長よろしくお願いいたします。

(宮地委員長)

皆さん、こんにちは。第1回の会が7月でございましたので、随分間が空いた事をお詫び申し上げます。第1回目には鏡野中学校へ行っていただいて、子ども達の様子を見ていただきました。その姿を観て、乳児期、幼児期、児童期をどう過ごしていかなければならないのか、あるいは保育・教育をしていかなければならないのかというような議論になっていこうかと思っております。

今日は、小学校への接続につきまして、幼児期の終わりまでに育ててほしい姿という観点から、意見を賜りたいと思っております。

それでは、まず、皆様方からご意見を伺う前に資料の説明をしていただけたらと思っております。

(小松班長)

それでは、お手元の資料について、ご説明をさせていただきたいと思います。

まず初めに、就学時知能検査の状況について、ご説明をさせていただきたいと思います。

就学時知能検査は、就学前の5歳児のお子様を対象に、就学にあたって行う検査であり、健康診断と一緒にっております。

その結果について、平成18年度から令和4年度までの結果をまとめたものが、資料の1枚目になっております。資料の一番上段については、現学年の欄がその年度における学年で、R5年度学年の欄が今年度の学年を表示しているものです。

次の欄が、その年度の検査結果の平均点を表示しておりまして、検査は15点満点となっております。

その次の欄から下が、各年度の結果を、10点以下、11点～13点、14点以上の子どもの人数の割合を標記しています。

下の棒グラフと折れ線グラフですが、濃い青色の棒グラフは10点以下、グレーのグラフは11点～13点、薄い青色のグラフは14点以上の子どもの人数の割合です。折れ線グラフは平均点のグラフとなっております。

平成18年頃から比べますと、平均点は下がってきている状況で、また、14点以上のお子様の割合が少なくなってきた状況になっていきます。

次に、2ページからですが、平成29年度から、香美市の就学前の子どものことばの調査を、現在慶應義塾大学に在籍されておられる北准教授が行っておられまして、昨年度の検査結果をもとに変化をまとめられたのが、以下の資料となっております。

これをみますと、令和4年度に40字以上読めた子どもの割合が、令和3年度と比較して大きく下がっています。

ことばや文字の習得が非常に厳しい状況になってきているのではないかと危惧しているところです。

このため、この検査結果が出たときに、どのような保育がことばの習得で有効かという事を、北准教授にお伺いしたところ、遊びのなかで、ことばや文字に関心をもつような取組が有効だということで、かるた遊びやしりとり等が有効であるのご助言をいただき、早速、各園で取り組んだ事でした。なお、この資料は会議終了後、回収させていただきたいと思います。

次に、保育所保育指針（一部抜粋）の資料ですが、この保育所保育指針は、保育園の運営を行うにあたって留意すべき事項、遵守すべき事項として、国がさだめているものです。

その中で、3ページ目に記載しております、赤字の箇所ですが、幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿という事で、保育指針で示されている保育の内容やねらいによって、育まれる小学校就学時の子どもたちの姿として掲げられています。

なお、これは、到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないことに留意する事が必要で、保育士が適切にかかわる事でみられるようになる姿と考える必要があります。この姿をもとに、小学校の先生と共有して理解しあい、小学校へうまくつながっていく事が重要だと考えられます。

次に、小学校へうまくつながっていくためのものとして、アプローチカリキュラムがあります。

これは、保育園等での5歳児の保育内容に関するカリキュラムで、どのような内容の取り組みが、小学校への接続に必要なと考えるためのものです。また、小学校1年生では、就学した子どもが、スムーズに小学校生活を送れるように取り組む、スタートカリキュラムがあります。

アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムは相互に関連しあって、連続性のあるものであることが必要です。

参考に、お手元に、高知県のホームページに掲載の資料「なるほど 保幼小接続期カリキュラム」をお配りしておりますので、ご覧をいただけたらと思います。

次に、他市の保育園と幼稚園のカリキュラムをお配りしております。保幼小接続期カリキュラムと言う名称ですが、これもアプローチカリキュラムでして、この保育園のカリキュラムは、小学校の4月、5月を特に意識した内容となっております。

アプローチカリキュラムは従来、5歳児後半、小学校1年生の前半のカリキュラムとして、取り組んでいたものを、5歳児、小学校1年生の2年間で、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを、保育園や幼稚園、小学校と一緒に考えてカリキュラムを作成していく、架け橋期のカリキュラムに取り組むよう、国は進めております。その中で、高知県内では春野東小学校区で、本年度モデル事業として取り組んでおりまして、その資料を参考にお配りさせていただいております。

最後に、架け橋期プログラムのシンポジウムが12月26日に開催されますご案内について、お配りさせていただいております。是非、ご参加をお願いしたいと思います。

また、香美市教育研究所から頂いております、就学時知能検査の状況（右肩にマル秘）の資料ですが、この資料は、先の就学時知能検査の状況の資料に情勢や、香美市の状況、出来事等を併記したものです。

以上、資料の概略を説明させていただきました。

よろしくお願ひしたいと思います。

(宮地委員長)

それでは、信崎所長から補足説明をお願いしたいと思います。

(信崎所長)

少し補足をさせていただきたいと思います。調査によっては実施していないところもありますので、香美市の現状として受け止めていただけたらと思います。長い間、

就学時検診の折に、この知能検査、就学時新M-S検査というのをやっております。これは採用している自治体が多いのですが、この検査はそのお子様の今の状況がどうかというところを概略的にみていく、主に知的なところの心配がないかをみていくのが主になっています。ただ、お子様によりましては、初めての検査で、小学校という場所に初めて入り、また、初めての先生の説明を聞きという事で、非常に緊張の高いお子様、相手とのやりとりがあまり得意で無いお子様については、妥当な線が出ない事もありますので、あくまで傾向として、捉えているところです。香美市といたしましては、お子様の就学前の状況を丁寧に看取って、その状況を小学校に送って、そのスタートが非常に細やかに、そしてお子様の状況を踏まえたものになるようにという願いを込めて、その集計と分析を園長先生や校長先生方にもお示ししてきております。

最初に見ていただいたデータにおいて令和元年に少し下がってきている傾向から、背景にどのようなものがあったのか、考えられるのかなという事の1つに、ちょうどスマホ等の社会的な状況があったのではないかという事で、私供の書物にアンデッシュ・ハンセンさんという方が書かれた「スマホ脳」という本がありましたので、このところから少し拾い出してみたものを添えながら、自分なりの分析を加えて報告をさせていただいたところです。

だいたいどういう時期にそういうものが出て、普及率が高くなってきて、それがどういう影響になっているのかという、これもまああくまで推測の域にすぎませんが、たとえばこの本を書かれた方によりますと、1日の使用時間が4時間や5時間となっていくますと、睡眠や運動、他者とのかかわりの減少、精神状態が悪化したり、記憶力が低下したりする傾向もあつたりという事で、これも世界的にIQの低下、特に北欧の方ではそういう事が観られ始めたという報告がこの年2020年になされています。また、スマホやパソコンに多くの事を任せる事で操作する以外の知能や運動機能が失われるのではないかという危機感を抱いているという事が叫ばれた年でありました。

そしてその後、令和3年度から実施した分については、やや持ち直していますが、昨年度はやや下がっているという状況であり、凸凹はありますので、あくまでも、やや高かった時期からいうと、やや下降気味、右肩下がりにはなっています。ここは、捉えていくべきですが、お子様によっては凸凹もあるという見方もしていただけたらと思います。

多様な経験が少なくなってきた、保育にしても長時間保育で帰ったら、食べて寝るという生活が多くなってないかなあとか、土日に家族と過ごす時間や、運動体験や自然体験の乏しいお子さんが増えてきた。核家族化が進み、社会性であるとか、コミュニケーションとかも薄れているかなあとか、色んな要因が考えられるのではないかと、当時、話し合った事でした。

こういう事を踏まえて、この後の話に続いていくのではないかと思います。

以上です。

何か、ご質問があればお答えさせていただきたいと思います。

(宮地委員長)

有難うございます。

今日は資料がたくさんありますので、簡単な説明となりましたが、ちょっとここはどうなんだという箇所がたくさんあるのではないかと思います。

ご質問、ご意見があればお願いしたいと思います。

どうぞ、よろしくをお願いします。

(宮地委員長)

それでは、保育園での実態についてお話をいただいて、こういう保育が必要なんだとか、こういう教育が必要なんだといったご意見を合わせもって、お伺いできればと思います。

まず、保育園から、特に5歳児の状況について、お伺いしたいと思います。

それでは、なかよし保育園の原園長先生から、お伺いしたいと思います。

(原園長)

なかよし保育園の原です。どうぞよろしくをお願いします。

5歳児のお子様についてですが、家庭的にも支援の必要な家庭もあり、核家族のため、祖父母の助けが借りられないという状況も多く、また、両親が忙しいので親子のコミュニケーションが乏しいためか、甘えたいところを十分に家庭で甘えられないため、保育園に来て甘えられない気持ちが出て、集団の時に難しいお子様が見られます。

就学に向けて様々な取り組みを行っていますが、なかなか、自分の思いが多くて回りの友達と折り合いがつけられない、集団生活が難しい子どもが多いように感じられます。

5歳児についても、昔なら友達があれやろうこれやろうという掛け合いに乗っていく子どもが結構いたが、今は少し少ないように思います。

(宮地委員長)

有難うございました。次に、あけぼの保育園の笹岡先生からお願いします。

(笹岡副園長)

あけぼの保育園の笹岡です。よろしくをお願いします。

5歳児は運動会で頑張る姿が見受けられました。あけぼの保育園は大規模園で、職員も80人おり、子どもとは職員みんなでかかわろうという意識のもとで、やっています。私は5歳児の担任ではなく、また延長保育の担当のため、直接かかわる時間は少ないですが、運動会の練習を見ていると、子どもが自分が頑張った事がチームに波及するという事を分かってくるのが、年長だなあと感じました。皆で力を合わせる心地よさ、意欲的に取り組むとかいうのは、こういう事かなと感じました。そこには、

春からコツコツ取り組んできた、集団での取り組みや、運動に関する取り組み等、そのピークを運動会にもっていき事を担任が努力して取り組んできたのだと感じました。

ただ、家庭的な事やコロナの影響もあったのではないかと、ちょっと接する事を怖がる影響もあるのではないかと考えています。

長時間保育と大規模保育園である保育園であるために、難しいなかでも頑張って取り組んでいるところです。

(宮地委員長)

有難うございました。続きまして、片地保育園の武内先生からお願いします。

(公文主任)

すみません。今日は武内園長が来れないため、代理で出席させていただきました。

主任の公文です。よろしくお願いします。

片地保育園の年長児は14名ですが、個性的で、自分の気持ちが一番、なかなか友達のところまでというところにはならないお子様がいます。

運動会では、棒のぼり、竹馬、跳び箱等、難しい課題に挑戦してきました。保育士の声掛けで、頑張ってやる子もいるが、なかには、やりたくないからやらないとか、保育園に行きたくないとか、そことの戦いでした。

担任が励ましてやってきたが、なかなかうまくいかなくて、最後は子どもたちで話しあってもらい、最後は自分たちに決めさせてやりましたが、最後の最後で全員が頑張る、子どもたちもすばらしくできて、結果的にいい運動会となりました。職員会でも職員同士で良かったという事で話し合いましたが、今回、運動会に向けての取り組みで課題等が見えてきたものがありました。日頃、子どもが苦しんでいる状況や、それに寄りそう余裕が職員にない、時間的な余裕がない事など、子どもの最善の利益のために自分達が何をすべきかという事を考えて、話し合ったりしています。また、子どもの非認知能力を伸ばしていかないといけないのではないかと思います。

また、小学校とも交流しながら、年長児はこれから就学に向けて準備を進めていきたいと思います。

(宮地委員長)

有難うございました。続きまして、新改保育園の堀内先生からお願いします。

(堀内主任)

新改保育園の堀内です。

新改保育園は全体で約50人の規模の園で、園全体がどの職員にもわかる規模の園です。

春に集団での力が無かった子どもが、様々な活動や運動会を通して、そこで自制していく力、友達の姿に気が付いて、一緒に応援したり、いいところをほめたりとかい

う姿が観られて、そこは成長したなあと思いました。

小規模園なので、子どもたち同士も関わりあえるところが、新改保育園のいいところだと思います。職員も子どもの事がわかるので、今ここを頑張っているという事が見えやすい、声をかけやすい、みんなでその子を育てていきやすい、年長については、園全体を引っ張っていつている、その姿をほめやすい、小学校へ向けてその姿をほめていつているところです。

香長小学校との交流があるので、小学校へのあこがれがある。これから、動の活動から静の活動へ、これから就学に向けていつてもらえたらと感じています。

(宮地委員長)

有難うございました。続きまして、美良布保育園の公文園長からお願いします。

(公文園長)

美良布保育園の公文です。よろしくお願いします。

美良布保育園は今年度88名で、年長児は13名のため、全職員が子どもの様子がよくわかり、あの子供はこうやねとか、見ています。

子どもが変わるのは、プール、運動会で、できなかった事ができるようになって、その自信が次の行事につながっているように感じています。

新しい事や新しい遊びには飛びつきますけれども、竹馬では春には足の指が痛くてやらなかったり、しんどくってやらないお子様もいましたけれども、子どもたち同士の励ましとか、頑張りゆうねえという励ましの言葉を得て、やってみようという意欲的な子どもになってきて、できるようになると、うれしい、うれしいという気持ちが育ってきて、もっとやってみようとかいう姿がみれるようになっています。

小さな積み重ねが自信につながります。

美良布保育園も大宮小学校と交流があり、プールで泳がせてもらったり、小学校へのあこがれの気持ちが出てくるようです。

今日は就学時検診で小学校へ行ける事が嬉しいという感じで年長児は帰りました。

やっぱり、わくわくするような活動や、どうやったらうまくいくのかなとか、とかいう活動を取り入れていきたいと思っています。

(宮地委員長)

有難うございました。最後に大柵保育園の黒原主任からお願いします。

(黒原主任)

今年は年長児がいなくて、全園児が5人の小規模保育園です。0歳、1歳、1歳、2歳、4歳で、今年は乳児が中心の保育ですが、それでも地域とまるごと交流するというようなイメージで、合同の運動会や、色んな体験をさせてもらっています。

去年は片地保育園にいましたが、大柵保育園とは交流で関わってしまして、運動会とかで自分達の力を発揮して、自信を持っていくという感じです。頑張つてあんな高い竹馬を乗ってきたんだよという自信を持たせて、小学校へ上がつていかせていくと、

色んな事に挑戦していけるのではないかと思います。

年長の頑張りや園全体で共有して、やっぱり年長さんはすごいねえとって、年長を盛り上げて、学校へ送っていく事をどこの園もやっていると思います。

(宮地委員長)

有難うございました。大柝保育園は環境は抜群にいいんですが、子どもが少ないため、集団の遊びとかができなくて、非常に苦労しているところがございます。

有難うございました。

(宮地委員長)

次に、土佐山田幼稚園の園長先生に、お伺いしたいと思います。

(中島園長)

うちも、小規模園で、43名ですが、小規模園でいい事は何かという事を職員間で話し合い、親や子ども達の顔が見られ、言葉が聞こえるということが大事だと話しています。

話したいことがあって話したい相手がいる、子どもも保護者もそうで、やはり信頼関係が一番なのではないかと思っています。

うちの園は制服で来ていますので、年少児から着替えはします。ですので、年長児になるとときには全員が着替える事ができます。ただ、中には、その日の調子によってパニックになって着替える事ができない子どもがいますが、ほぼ、どの子も着替える事ができます。

1学期は担任が声をかけて当番活動を行っていましたが、2学期になってからは、自分でグループの友達に声を掛けて当番活動をやっているように見受けられます。

外で遊んでいて、いざこざがあるのですけれども、教師はそこで見守るぐらいにして、子ども達同士で解決できるように、担任も手立てを考えているようです。

運動会は、途中から雨が降り始め雨の中で行ったので、嫌だとかいう声が聞こえるかと思いましたが、雨の中でのびのびいきいきした様子でした。環境が変わっても、やりきる姿を見て、子ども達は成長しているのだなあと思いました。

アプローチカリキュラムは、作成していますが、参考資料の園のカリキュラムは、スタートカリキュラムが入っていて、うちは、【スタートカリキュラムにつなげる】で終わっているの、そこは、私たちは改善をしなければならないのかなと思っています。

昨年までは、山田小学校1年生との交流で小学校の先生との打ち合わせはしますが、5歳児部分の作成は園でやっていました。今年は、山田小学校が5歳児の欄を作ってくれ、持ち寄って一緒に作成する機会を設けていただき、非常にありがたいと思っています。

(宮地委員長)

次に小学校の1年生の状況を含めて、山田小学校の校長先生からご意見をいただけ

たらと思います。

(植村校長)

さきほどから園長先生からお話いただいた中で、年長の子ども達が小学校へのあこがれをもってくれている、そういう取り組みを学校側ができているかを常に反省しながら、取り組んでおります。

毎年数名のお子様が、母親と離れたくないという事で、玄関先で大泣きをするお子様がいますが、不思議な事に2学期ぐらいから、ぴたりと止まりますが、そういうお子様たちが安心して通えるそういった学校づくりが基本だと考えています。

スタートカリキュラムを大事に考えていて、また、4月が小学校の始まりではなく、育ちは繋がっている連続しているという事を考えていくようにしています。

4月に全職員が校内で研修を行って、就学前の教育や発達に対する理解を深めて自分達のカリキュラムをスタートさせようとしています。大事な位置づけとしてやっております。1年生の橋渡し、接続をいかに大事にしていくかを重要視しています。

小学校のため、どうしても学習という点で制約がありますが、4月、5月は少し余裕をもたせてカリキュラムを行って、学校になれて頂こうと、また、色々なものを見てもらって触れ合ってもらって、安心して山田小学校へ通ってもらえるようにしております。

子ども達は山田小学校へ香美市内だけでも3保育園、2幼稚園からという事で、様々な状況となっています。大体スタートカリキュラムが終わる頃に集団が出来上がっている事になっている。

保育園等の先生方から、なかなか集団性が難しい、友達と折り合いがつかないというお話をお聞きしましたが、教師の方も間に入りながら、やっていっているところでございます。

それと非認知というところが大事だと思いますが、これはなかなか小学生でも身につかないところでございまして、家庭での生活を含めて、自分達大人が考えていかないといけないと思います。そのためには、環境が非常に大事だと思います。

ちょっと失礼な言い方になるかも知れませんが、保育園や幼稚園等の中での環境が十分なのかなあと思ったりします。この保育指針の中でも重要視されていますが、遊びが限定的になっていないか等とか、自分達が県外の保育園、幼稚園、小学校等を見にいった時にまず思ったのは、物が一杯あるなあという印象を受けました。

色々なものが自然におかれ、子ども達の活動を見ていると、そこで集中して遊んでいる子どもが、次から次へと遊びが広がっているという感じがしました。保育園も幼稚園も小学校も、カリキュラム的な事もそうですが、制限はありますが、物的なものも考えていかないといけないかなあと思いました。

(宮地委員長)

次に、保護者の方からご意見を伺いたいと思います。美良布保育園の近藤委員さん

からお伺いしたいと思います。

(近藤委員)

こう育ててほしいという姿はありますが、なかなか難しいですね。

保育園と保護者の関わりについてですが、逆に、保育園からは、保護者へどういう事をしてほしいと思われているのでしょうか。

あと、美良布保育園だけかも知れませんが、運動会で年長だと親子で一緒にする競技をいれてはどうでしょうか。お父さんすごいねとか、どっかで練習すると絆も深まり、お父さんの評価もあがるのでは。お父さんの活躍する場を作ってやってほしいですね。

(宮地委員長)

大事な事だと思います。一番大事な事だと思います。次に保護者の公文委員さんから、ご意見をいただけたらと思います。

(公文委員)

この資料をみていますと、大柝保育園はできているのかなあとと思います。

上の子が小学校へ行くときもスムーズにいったと思いました。

大柝保育園は、保育園と保護者との連絡も密で、保護者と先生との距離も近いので、連絡が密にできていると思います。また、先生が、子どもの心配もしてくれるし、保護者の心配もしてくれます。先生が親も受け入れてくれます。

(宮地委員長)

大柝保育園は地域が一体となって受け入れていることがよくわかります。

有難うございました。

次に、高知大学の竹内先生から、お話を伺いたいと思います。

(竹内講師)

お世話になります。

園の先生方のお話をお伺いしておりますと、重要な課題はきちんと押さえられていると思いました。保育園の先生方しっかりと考えられていますので、心配がないなと思いました。

集団で行動することが苦手な子どもが多いという事ですが、まずは、自分でやりたいことをやるという気持ちがあって、それを行動に移せる力が育つことが先で、その後、集団の中でうまくやっていくことへ向かっていかないと、自分からは何もできない子どもになってしまう。そうすると、後で社会へ出た時に、自分では何もできない、しないようになってしまう。主体性・自主性の芽を十分に保育園の間に育ててあげて、年長になる頃から少しずつ、友達同士を思いやれるようになってくるといふ順番で育てていく事が大事だと思います。

あと、非認知能力のところは非常に大事なところでして、この夏に東北大学が研究発表していますが、スクリーンタイムが1時間伸びると、課題解決能力やコミュニケ

ーション能力の幼児期の発達が遅れるという、これは当然、スクリーンタイムの間は家族と関わる時間も減るし、体を動かす時間も削られていくということが出てくるからですが、小さい子どもの知能は十分体を動かすという事で一緒に発達していくので、そういう意味では非認知能力だけでなく、認知能力の発達も遅れることとなります。

また、コロナの影響については、2極化という意見がありまして、低年齢児の子どもは親と一緒に過ごす時間が増えてむしろ発達面で良かったのですが、幼児になると、あるべきともだちとの密なかかわりが少なくなっていて、コミュニケーション能力が十分鍛えられない状態で小学校へ上がっていく、そのあたり、差が出てくる。そこはちょうど、今からフォローが必要になってくると思います。

あと、自然とのかかわりで、色んなものに触れて、小さい時から色々な情報を結び付けて概念的なものを身につけていく、その時に適切に園の先生方が関わっていくことで、子どもなりにうまく概念を結びつける練習ができていると、小学校を経て中学校へ上がったとき、抽象的な概念の学習によって起こる「中1の壁」につまずく子が出てくる中で、そこを乗り越えることが少し楽になってくると思います。

家庭については、保護者の方は非常に忙しいですが、長時間保育をマイナスにとらえないで、むしろ保育園でしっかり体を動かせられると良く捉えて貰うのがよいかと。かえって無園児の子どもが家で体を動かさずに成長して、後から問題が出てくるケースもあるので、そこはマイナスに捉えない事も大事かと思えます。

睡眠については、2歳児ぐらいまでに、毎日決まった時間に寝る基礎が固まるようです。それぐらいまでに自分で眠れる基礎ができていないと、小学校へ上がった時に差がでてくるので、そのあたりの取り組みについては、園だけでなく、保護者や地域全体で取り組んでいければと思います。

小学校の接続については、なかなかどこも難しいようで、附属幼稚園へよく関わっていますが、そこは敷地も隣で一緒になっているので保幼少の人材の交流もやりやすく、特に人材の交流は相互理解のためによいようですが、校区がまたがっているとなかなか難しいと思いました。

(宮地委員長)

有難うございました。専門的なところについては、今日は無理かも知れませんが、もう少し掘り下げていきたいと思えます。

有難うございました。

次に、信崎所長にお願いしたいと思えます。

(信崎所長)

研究所としては、就学前のお子様については、特別支援としてきめ細やかな支援のところを繋ぐという事や、見つかった課題にどうアプローチしていくという事で、たとえば、言葉の力や、弱さをどう繋いでいくかという事で、美良布保育園の協力を得て、時々、入らせてもらっています。言葉あそびや手遊び等をさせていただいており

ます。そういうものを保育園でも取り入れてもらえたらと思いますが、運動会、バザー、発表会等もあり、保育園の中に入っていける時間がなかなかなく、保育園の先生方もご苦勞をされておられるのかなあと、思いました。

特に年長さんになるとやる事がたくさんあったり、作るものがたくさんあったりと、時間をつくるのに、ご苦勞をされているのではないかなあと感じています。

ただ、こういう取り組みは保育園の中の遊びの中に自然に入っている事が望ましいので、個々に取り出してという事ではないと思います。

自由保育の中にそういう環境であったり、絵本コーナーを作って子ども達がどうしたら読書、絵本に親しむ等、今、高知こどもの図書館の方に、なかよし保育園と美良布保育園にご了解をいただいて、絵本の読み聞かせの仕方であったり、保育環境をどう整えていったらいいかという事を保育園の先生方と話しながら、どう次のステップを進めていけるかを考えているところです。

保育園の先生方で作っておられるサークル（研究会）と、私たちが考えている研究内容とが重なった時に、お互いに発展ができるようになればいいなとか、考えています。そういう意味でも、ご協力をお願いできればと思います。

また、そういう面ではこちらもできるだけ頑張っていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

（宮地委員長）

有難うございました。ここで、白川教育長様からご意見をいただきたいと思います。

（白川教育長）

今日は本当に貴重なご意見を有難うございます。

ちょうど香美市教育委員会は来年度からの新しい教育振興基本計画を作成中でございます。今後10年間の取り組みを考えているところですが、就学前の教育について、大事といいながら本当に皆さんと一緒に考えて来れたかというところを反省しているところでございます。

つきましては、時代はどんどん進んでおりまして、竹内先生からもお話がありましたように、我々が子どもの頃の基本的な生活習慣とは全然違う、その中で、小学校や中学校の枠組みは変わっていないで、その中で社会へ出た時に果たして通用するのか、学びの接続の提供を我々はきちんとできているのかというところを問い直しているところでございます。

今日頂いたご意見をしっかりと取り入れさせていただいて、今後の子ども達の成長に向けて、取り組んでいきたいと思いました。

中島先生から、アプローチカリキュラムの作成時にスタートカリキュラムを取り入れる際のお話の中で、小学校からのお話を有難くいただいたというような事は、そういう場を提供する事が、教育委員会の仕事であると思いました。植村校長先生、有難うございました。

早速、教育委員会でも無理のないように検討していく事が必要であると思いました。それから、信崎所長様からお話のありましたように、行事の精選という事は、学校も大変で、地域で行う行事もあるものですから大変ではありますが、見直しも行っているところです。

貴重なご意見をいただきましたので、園長先生方も一緒に考えていただけたらなあと思いました。

(宮地委員長)

有難うございました。

本日のお話をまとめさせていただきますと、保育園からは園の行事についてのお話をメインとして頂きました。

また、非認知能力だけでなく、認知能力も大事であるというお話と、行事でない普段の保育の中でどういう保育・就学前教育をしていくのか、そういう事をしていくには小学校の接続を意識したアプローチカリキュラムの設定、小学校のスタートカリキュラムとバラバラに作らず、一緒に考えていく事が大事である等であったと思えます。

これらを今日は時間がありませんので、深めていく事は難しいため、次回に1つ1つ議論を深めていく事にしたいと思いますがいかがでしょうか。

(特に反対意見はなし)

有難うございました。

それでは、次の会の時に1つ1つ議論を深めていきたいと思えます。

どうぞよろしくお願いします。

また、今日の資料は次回持ってきていただけたらと思えます。

他に何か、議題やご意見等はございませんでしょうか。

(特に意見はなし)

ないようでございますので、次回の日程について、お伺いしたいと思います。

(小松班長)

次回の会は、1月22日(月)13時30分からは、いかがでしょうか。

特にご意見はないようでございますので、次回は1月22日(月)13時30分からお願いしたいと思います。場所は後日ご連絡をさせていただきます。

(宮地委員長)

それでは、これで、第2回香美市保育園運営委員会を閉会させていただきます。どうもお疲れ様でした。